

哲学の道

副院長 兼 循環器内科部長 俵原 敬

2012年の冬の休日ふと思い立ち、「そうだ 京都、行こう。」ということになり京都に行くことにしました。紅葉の季節は終わっていましたが、銀閣寺から南禅寺方向へ哲学の道を散策。哲学の道は京都市左京区にある小道で、哲学者・西田幾多郎がこの道を散策しながら思索にふけたことからこの名がついたと言われています。

1990年代前半にドイツで学会発表したあと同僚とハイデルベルクという街に立ち寄りました。ハイデルベルクはドイツ最古の大学が設立された街で、そこにも大学の教授や学生たちが好んで散策し、哲学的な思索や瞑想に耽ったところから哲学者の道と名付けられた小道があります。緑の森に抱かれた古城、赤い屋根の旧市街、青い川と橋といった、この道からの眺めはドイツを代表する風景の一つとされています。



哲学について思いつくのは、ソ、ソ、ソクラテスカプラトンか、ニ、ニ、ニーチェかサルトルか、みーんな悩んで大きくなった、といった1970年代?野坂昭如さんが出ていたウイスキーのCM(古い人しかわかりません、ごめんなさい)という俗人の私としては哲学(者)の道を散策しても思索は煩惱

ばかりです。

ただこんな素敵な小道を散策しなくても浜松には浜北森林公園、佐鳴湖公園、浜松城公園など散歩・散策コースがあります(私の主な散歩コース)。ウォーキング・散歩は出費が少なく恩恵の大きい生活習慣病予防・健康法です。典型的なウォーキングの特典を以下にお示します。心臓病の危険因子を減らす(悪玉のコレステロールや中性脂肪を減らし善玉コレステロールを増やす、血圧が下がる、糖尿病が改善など)。体重のコントロール(美容にもよい)。心肺機能を高める。リラックスする(精神的ストレスを減らす)などなど。

これらのことは分かっている寒い冬・暑い夏には散歩もいやになってしまいます。そういう季節に外来の患者さんによくお奨めしているのは大型ショッピングセンターでのウォーキングです。冷暖房完備で快適です。最後に買い物していけばお店も喜びます。

これからは春さくらの季節でもあり散歩にはうってつけの季節です。皆さんもウォーキングを人生にとり入れ、より健康的に生活をしていただくことをお奨めします。



やさしい 疾患手帳

ケロイド、肥厚性瘢痕について

形成外科部長 おかもと としひろ 岡本 年弘



Profile プロフィール

- 所属 / 形成外科 ● 役職 / 部長
- 専門分野 / 形成外科全般、皮膚腫瘍外科、顎顔面手術、手足の先天異常
- 認定医・専門医等 / 日本形成外科学会専門医、皮膚腫瘍外科指導医、日本創傷外科学会専門医
- 自己PR / 患者ひとりひとりのお話をよく伺い適切な治療を行うよう心がけています。
- 趣味 / 旅行、音楽鑑賞

ケロイドという病名は、一度は聞いたことがある方は多いと思います。手術やケガ、ニキビ、注射などの跡が赤く盛り上がり、カニやエビのハサミに似た外観を呈するため、そう呼ばれています。肥厚性瘢痕というのは、ケロイドの一部と考えられますが、その広がり方が限局的で、治療効果が得られやすいため区別した病名があります。

外観的に醜状を呈することに加え、自覚症状としての痛みや痒みで悩んでいる方も多いです。悪性の病気ではありませんので、生命を脅かすことはありませんが、かといって放置すると日常生活に支障を来す場合もあり、軽視できない病気です。好発部位が決まっています。胸、肩、恥骨部に最も多く、他に腹部、背中、耳介、足背などにも生じることがあります。出来やすい体質があるため、個人差が大きいです。詳細はまだよくわかりません。

治療方法としては、大きく保存療法と手術療法に分けられます。保存療法としては、圧迫、副腎皮質ホ

ルモン外用あるいは注射療法、トラニラストという薬の内服、電子線照射療法等があります。手術療法としては、切除縫合、植皮術、皮弁作成術などを行います。ただし、手術単独ではケロイドは高率に再発し、良好な結果が得られないことが多いため、先に述べた保存的治療のいくつかを組み合わせる治療を行っています。

病院探検

リハビリテーション科



当院のリハビリテーション科は、医師、理学療法士とマッサージ師、作業療法士、言語聴覚士の5つの職種で構成されています。訓練を開始するにあたっては医師が診察をして訓練の計画を立てます。医師は訓練の経過を観察して訓練内容を調整します。それでは主な業務内容を説明します。



▲リハビリテーション科スタッフ

理学療法

基本的な生生活動作の回復・維持を図るために運動療法を実施します。物理的エネルギー(光、熱...)などを用いて治療を行います。



▲理学療法(医師とともに歩行を評価する)

作業療法

身体機能や認知機能に障害がある人に対して、安定した生活を獲得するために、作業活動を使って治療や訓練を行います。



▲言語療法(発音訓練)

言語療法

失語症(言葉が話しにくいあるいは聞き取りにくい)、構音障害(ろれつが回らない)、嚥下障害(飲み込みに困難がある)などに対して、検査や訓練を行います。



▲作業療法(手の機能訓練)

当院では主に入院患者さんに対して訓練を行って、原則として外来患者さんの訓練は行っていません。退院後にリハビリが必要な方には近隣の診療所やクリニックを紹介しています。また、介護保険でのリハビリも勧められています。主な対象疾患は、脳神経疾患、骨関節疾患、切断、循環器疾患、呼吸器疾患、肺炎や外科手術後などによる長期臥床です。

浜松赤十字病院は創立75周年を迎えました

1938(昭和13)年に現浜松市中区高林に創立以来、幾多の変遷を経て2007年に現在地(浜北区小林)に新築移転しました。現在は救急医療、がんをはじめとした高度専門医療を中心に地域と密着しながら病院運営に努めています。これからも地域の皆さまに信頼される地域中核病院を目指して弛まぬ努力と更なる成長をし、次なる80周年さらには100周年に向けてこれからも努力してまいります。



▲1938年開設当時の浜松診療所



▲1980年頃の浜松赤十字病院

現在の浜松赤十字病院は表紙右下に掲載